

この展覧会は2つの物語から出発している。一つは松山鏡という鏡が主題となった落語、そしてもう一つは生成 AI による存在しない鳥の話である。

私はこれらの物語を通して、現実の虚構化、もしくは虚構の現実化ということを考えて。現実と虚構の境界をなくしてしまうことも言えるであろう。

絵画と画像という異なるメディアの間で、私が見ているものは一体何なのかということにアプローチしてきたが、今回新たな角度で試みたい。

鏡の無い村¹

松山とは現在の新潟県十日町市あたりのことを指す。原話は古代インドの民間説話を集めた仏典²とされている。

あらずじはこうだ。ある親孝行な男に褒美としてなんでも願いを叶えてやるとお上が言う。その男は18年前に死んだ父親に会いたいと言いつつ、さすの役人にも無理な話だが、父親とその男が瓜二つだということを知り、男に鏡を見せた。鏡を見たことがない男は本当にそこに父親の顔があると思ひ込み大変に喜んだ。

そこから鏡を村に持ち帰るが、女房に鏡の存在がばれてしまう。その村人全員が鏡を見たことがないので、大きな勘違いを生んでいく、と言った具合の滑稽話である。

この噺は鏡を見たことがない=鏡に映る像が自分の姿だと認識できないというシンプルな設定である。しかも少し話は複雑である。

主人公は鏡に映る男を自分ではなく自分の父親と認識している。しかし同時に父はこの世には既にもいないことも理解している。彼は鏡に映る人物がこの世のものではないと理解しながら、コミュニケーションができる実像として対峙する。

つまりこの噺の中で鏡は、虚像でありながら実像でもあるといった、その境界を曖昧にしてしまう道具として機能している。

虚実がおぼろげな像に男は自分の感情をさらけ出す。彼は現実において、もう父親と会うことはできない。だからこそ、その曖昧な像を映し出す鏡は彼が見たかったものを見せてくれるのであろう。

存在しない鳥³

Twitter である鳥を撮影した写真が話題となった。なぜ話題になったかという、この世に存在しない鳥が写されていたからだ。撮影者は自ら撮影した写真だと言いはるが、バードウォッチングに詳しい人々からすれば、明らかに何かしらの加工がなされているとしか思えない写真であった。

結論から言うとこの写真は AI が生成した画像だったのだが、騒動になってしまった理由が興味深い。

撮影者は AI による画質改善サービスとしてあるアプリを利用し、写真のブレやピンボケ、画質の改善を行った。しかしこのサービスは画質を改善するために、画像そのものを生成し直しており、そもそもまったく別の画像を作り出していた。撮影主は鳥に詳しくわけではなく、またアプリの仕組みも理解はしていなかった。彼は悪気なく存在しない鳥を作り

あげてしまったのだ。

しかしその写真を発見した鳥好きの人たちがこれは作られた嘘の写真だと主張し、論争に発展してしまったのである。

彼らは一次情報を置き去りにしてしまっている。最初から最後まで虚構の正当性を主張しあっている。

Togetter でも話されているが、これは AI 生成プログラムに限った話ではない。私達が普段使っているスマートフォンのカメラでも勝手に補正がなされているし、そもそも写真というメディアは真を写す道具ではない。

そう考えると私たちは、日々作り上げられた存在しないイメージを大量に見続けていることになるのかもしれない。

写真に写るもの、絵画で描けるもの

私が中学生の頃に携帯電話にカメラが初めて搭載された。softbank がまだ J-PHONE のころの話である。

私の地元は夕焼けが美しく、晴れた日には文字通り燃えるような夕日を見ることができた。カメラ付きの携帯を買ってもらった私はなんとかしてその夕日を取めたいと考えていた。

しかし写真となった夕日はこの目で見る色とは全く違う色をしていた。もちろんカメラの性能を考えれば当然なのだが、当時の自分はそれがなぜなのか理解できなかった。

一方、同じ頃にモネの夕日の絵を見たことがあった。そこでは私の目で見たい夕日が再現されていると感じた。光や温度、湿度がそこにあると感じたことを今でも覚えている。

振り返ってみると、私の絵画への興味はそもそも画像との関係性だったことに気づく。タッチの集合である絵からリアリティを感じることもあれば、現実を切り取る写真が全くの作り物に見えることもある。

自分にとって絵画とは一体何なのか、ということ考えた時にこの体験を思い出す。

私はこの曖昧さであり、境界がないことをテーマにしたい。それは私が写すことのできなかったものの正体であり、私が絵画を描く動機でもある。

鈴木秀尚

1. 松山鏡 概要 - 落語散歩 164

(<http://sakamitisampo.gdgd.jp/matuyamakagami.html>)

• 桂文楽 松山鏡 - Youtube

(https://www.youtube.com/watch?v=B5nhSyH_w1g)

2. 百喻経 (ひやくゆきょう)、第三十五卷の「宝篋 (ほうきょう) の鏡の喩 (たとえ)」

3. AI の画像補正技術が高すぎて、そこに存在しない生物を作り出して起きてしまった悲劇 - Togetter

(<https://togetter.com/li/2138195>)



上記参考 URL のリンク集です。

QR コードを読み取りご覧ください。